

平成28年度

第13回

東京都高等学校体育連盟 研究大会 紀要



期日 平成29年2月19日(日)
会場 目白大学
主催 東京都高等学校体育連盟
後援 東京都教育委員会
主管 東京都高等学校体育連盟研究部
協力 目白大学
東京都高体連ホームページ

<http://www.tokyo-kotairen.gr.jp>

平成28年度 第13回 東京都高等学校体育連盟 研究大会

表紙 デザイン協力

東京都立王子総合高等学校 1年 横山 彩香 さん

大会日程

<<開会式>>

13:30~13:50

- | | | |
|-----------|---------------------|-------|
| 1. 開会のことば | 東京都高等学校体育連盟研究部部長 | 庄司 一也 |
| 2. あいさつ | 東京都高等学校体育連盟会長 | 大田原弘幸 |
| 3. 祝辞 | 東京都教育庁指導部体育健康教育担当課長 | 佐藤 浩 |
| 祝辞 | 元東京都高等学校体育連盟会長 | 山崎 正己 |

【講演】

13:50~15:00

質疑応答 10分

「平和運動としてのオリンピック」

首都大学東京オープンユニバーシティ特任教授
NPO法人日本オリンピック・アカデミー理事

舩本 直文

<< 休憩 10分 >>

【全国高体連研究大会 報告】

15:10~15:30

各分科会 5分

- | | | |
|-----------|------------------|------------|
| <課題研究> | 秋月 隼(都立美原高等学校) | 弓 道 専門部 |
| <競技力向上> | 新井 理仁(都立東大和高等学校) | ソフトボール 専門部 |
| <健康と安全> | 塩田 伸隆(都立松原高等学校) | 空手道 専門部 |
| <部活動の活性化> | 鞠子 智秋(都立清瀬高等学校) | サッカー 専門部 |

【研究発表】

15:30~16:25 各発表25分 質疑応答 5分

<競技力向上> 「城西大城西高校の強化について ～短距離ブロック中心に～」
東京都高体連研究部 第1分科会 巢 鴨 高等学校 黒木 義郎

<健康と安全> 「全国高校総体参加選手対象アンケート調査の結果から」
— 紙上発表 —
東京都高体連研究部 第2分科会 日本大学豊山高等学校 田中 玄太

<部活動の活性化> 「新たな歴史が刻まれた — 空手道 2016 —」
東京都高体連研究部 第3分科会 帝 京 高等学校 手塚 智幸

<<閉会式>>

16:25~16:30

- | | | |
|---------|------------------|-------|
| 1. あいさつ | 東京都高等学校体育連盟副会長 | 高坂 仁 |
| <司会者> | 東京都高等学校体育連盟 事務局長 | 采野 慶明 |

目 次

あいさつ	東京都高等学校体育連盟会長	大田原 弘幸	1
大会役員			2
開催要項			3
講 演			
	「平和運動としてのオリンピック」		
	首都大学東京オープンユニバーシティ特任教授 NPO法人日本オリンピック・アカデミー理事	舩本 直文	4
研究発表			
	＜競技力向上＞「城西大城西高校の強化について ～短距離ブロック中心に～」		
	東京都高体連研究部 第1分科会	巣鴨 高等学校 黒木 義郎	□□
	＜健康と安全＞「全国高校総体参加選手対象アンケート調査の結果から」 —紙上発表—		
	東京都高体連研究部 第2分科会	日本大学豊山高等学校 田中 玄太	□□
	＜部活動の活性化＞「新たな歴史が刻まれた — 空手道 2016 — 」		
	東京都高体連研究部 第3分科会	帝 京 高等学校 手塚 智幸	□
研究部規約			□
研究部 組織と名簿			□
調査用紙			3□
	「平成28年度 第51回全国高等学校体育連盟 研究大会紀要（抜粋）」		
			3□



研 究 大 会 に 寄 せ て

東京都高等学校体育連盟

会 長 大田原 弘 幸

平成28年度、第13回東京都高等学校体育連盟研究大会が、研究部を中心に各競技専門部の皆様のご協力と関係者の方々のご支援により開催できますことを心より感謝申し上げます。本連盟は、「競技力向上」と「研究」を両輪と捉えて活動しています。この研究大会は、東京都高等学校体育連盟に加盟する各専門部の体育・スポーツ指導者の資質向上を図ることを目的としています。

今年度は、「競技力向上」「健康と安全」「部活動の活性化」の3分科会からそれぞれのテーマについて発表が行われます。また、この1月に富山県で実施された全国高等学校体育連盟研究大会の報告も行われます。これらの研究発表などが高等学校教育の一環としての体育・スポーツの振興発展に資するものとなりますことを期待しています。

さて、昨年の夏、平成27年度全国高等学校総合体育大会「 情熱疾走 中国総体」が、岡山、鳥取、島根、広島、山口、和歌山の6県において開催され、各専門部の先生方のご尽力のおかげで成功裏に終了いたしました。東京勢の活躍も素晴らしく、陸上競技、新体操、バレーボール、ソフトテニス、柔道、水泳、レスリング、ボート、少林寺拳法で優勝者を出すことができました。その他の競技においても「チーム東京」を合言葉に、選手一人ひとりが最高のパフォーマンスを発揮し、観る人に勇気や感動を与えることができました。これもひとえに各専門部の先生方の、熱い情熱や深い愛情によるご指導の賜物と感謝申し上げます。本当に有り難うございました。

次に、2020年の問題ですが、東京オリンピック・パラリンピックに向けて国民のスポーツへの興味・関心が高まる中、同年に予定していた北関東4県での30競技の同時開催が困難になり、いまだに実施予定が立たない競技が多数あることは非常に残念です。国民的プロジェクトの一方で、その年の高校生アスリートの夢を壊すようなことがあってはなりません。本連盟としても、全競技開催に向けて組織的に取り組んでまいります。また、高体連が解決すべき課題は体罰根絶、健康や安全指導など少なくはありませんが皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

結びに、本研究大会の開催に向けご尽力いただきました研究部を始め関係専門部の皆様や、会場を提供していただいております目白大学を始め、ご支援いただきました多くの関係者の方々に感謝申し上げます。ご挨拶とさせていただきます。

平成28年度 第13回東京都高等学校体育連盟研究大会 役員

会長 大田原弘幸

副会長 畑澤 正一 高橋 あゆち 久保 淳 奥秋 將史 高坂 仁
鯨岡 廣隆 平池 徳見

参与 高橋 秀信 采野 慶明 高野 幸代 池戸 成記 杉渕 明子
渡辺 洋司 田中 茂好 各専門部部長

委員長 庄司 一也

副委員長 塩田伸隆 中塚 義実

委員 奥正克 田中玄太 工藤慶之 田中康之 新井理仁
鞠子 智秋 征矢範子 秋月 隼 児玉 朋隼
各専門部代表研究部委員

運 営 役 員

総務 塩田伸隆

総務員 中塚 義実 工藤 慶之

渉外・接待 高松 清 橋爪 里実 齋藤 香 石田 このみ 塩田 伸隆

会計 新井理仁

紀要 塩田伸隆
(表紙) 都立王子総合高校

記録(写真・録音・テープ起し) 鞠子 智秋

受付 征矢範子 新井 理仁 尾崎 あゆみ 牧野 飛人

司会者 采野 慶明

発表 黒木 義郎 田中 玄太〈紙上発表〉 手塚 智幸

全国高体連研究大会報告

秋月 隼 新井 理仁 塩田 伸隆 鞠子 智秋

平成 28 年度

第 13 回東京都高等学校体育連盟研究大会

開 催 要 項

- 1 趣 旨 東京都高等学校体育連盟に加盟する各専門部の体育・スポーツ指導者の資質向上を図るために日ごろの研究、指導の成果を発表するとともに高体連の直面する諸問題について情報交換し、高等学校教育の一環としての体育・スポーツの振興発展に資する。
- 2 主 催 東京都高等学校体育連盟
- 3 後 援 東京都教育委員会
- 4 主 管 東京都高等学校体育連盟研究部
- 5 期 日 平成 29 年 2 月 19 日 (日) 13 時 30 分 ～ 16 時 30 分
- 6 会 場 目白大学 新宿キャンパス 〒161-8539 新宿区中落合 4-31-1
西武新宿線「中井」・都営大江戸線「中井」駅より 徒歩 8 分
- 7 参 加 者 東京都高等学校体育連盟加盟校の体育・スポーツ指導者
東京都高等学校の部活動に興味関心を持つ指導者・研究者・学生
- 8 内 容 (1) 研究発表 (全体会) 2 テーマ
「競技力の向上」 (競技力) 1 テーマ <陸上競技専門部>
「健康と安全」 (安 全) 1 テーマ <紙上発表>
「部活動の活性化」 (普 及) 1 テーマ <空手道専門部>
(2) 講 演 「平和運動としてのオリンピック」
講師 舩本 直文 氏
(首都大学東京オープンユニバーシティ特任教授、
NPO 法人日本オリンピック・アカデミー理事)
(3) 全国高体連研究大会 報告 課題研究・3 分科会
※各発表テーマ・講演内容は、<http://www.tokyo-kotairen.gr.jp> に掲載します。
- 9 時 程 13 時 00 分 受付
13 時 30 分 開会式
13 時 50 分 講演 60 分 質疑応答 10 分
——休憩 10 分——
15 時 10 分 全国研究大会 報告 各分科会・課題研究 各 5 分
15 時 30 分 発表 各発表は 25 分 質疑応答 5 分
16 時 25 分 閉会式

10 参加申込み

参加申し込みは、所定の用紙に必要事項を記入の上、各専門部で一括して申し込む。

個人の申し込みは、下記申込先に直接連絡する。

申込先 〒156-0045 東京都世田谷区桜上水 4-3-5

都立松原高等学校内 塩田 伸隆

TEL 03-3303-5381

FAX 03-3304-3062

申込期限

平成 29 年 1 月 16 日(月) 必着

□講 演□ □

□

□

「平和運動としてのオリンピック」 □

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□

□



舛□本 □直□文 □

□

首都大学東京特任教授□

□

平成 28 年度

講師プロフィール

首都大学東京オープンユニバーシティ特任教授

NPO 法人日本オリンピック・アカデミー理事

舩 本 直 文

【経歴】 □

□□□□ 年 広島大学教育学部卒業 □

□□□□ 年 東京教育大学大学院体育学研究科修士課程（体育学）修了 □

□□□□ 年 筑波大学体育センター（文部技官）勤務 □

□□□□ 年 東京都立大学理学部講師 □

□□□□ 年 同助教授 □

□□□□ 年 首都大学東京基礎教育センター教授 □

□□□□ 年 3 月 3 1 日定年退職、同年 4 月 □ 日より同大学特任教授 □

【専門】 □

専門はスポーツ哲学、スポーツ映像研究、オリンピック研究 □

学位：博士（□□□□ 年 筑波大学：体育科学） □

【社会活動】 □

日本体育学会体育哲学専門領域会長、NPO 法人日本オリンピック・アカデミー理事（研究委員会委員長）、公益財団法人東京都人権啓発センター評議員、稲城市いなぎ □□ カレッジプロフェッサー講座委員長等を務めている。 □

【主な著書】 □

『スポーツ映像のエピステーメー』 新評論、□□□□ 年 □

『オリンピックのすべて』（訳著）大修館、□□□□ 年 □

『写真で見るオリンピック大百科』（監修）ポプラ社、□□□□ 年 □

『オリンピック文化プログラム』（共著）勉誠出版、□□□□ 年 □

『J O A オリンピック小事典』（共著）メディアパル、□□□□ 年 他 □

東京都高体連研究大会講演

「平和運動としてのオリンピック」

講師：舩本 直文
首都大学東京
オープンユニバーシティ 特任教授
NPO日本オリンピック・アカデミー 理事
(自称) オリンピズムの伝道師 (IAGリスト)

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

1

「オリンピックは平和の祭典」：素朴な疑問

- ・ どうしてそう呼ばれるのか？
- ・ 他の国際競技 (W-CUPサッカー, W-CUPラグビー, 世界陸上, 各種の世界選手権との違いは？)
- ・ では、オリンピックではどのような平和イベントを行っているのだろうか？
- ・ 2020年東京大会ではどうするのか？

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

2

お話の流れ

- ・ イントロダクション&クイズ
- ・ 確認：「オリンピズム」とは
 1. 「聖火リレー」
 2. 「エケケイリア」
 3. 「国際オリンピック休戦センター」
 4. 「Olympic Village選手村」での平和運動
 5. 「開会式」の平和メッセージ
 6. IOCと国連の連携活動
 7. 2020年東京大会に向けて

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

3

知っていますか？「2016平昌宣言」

日中韓3カ国は23日、平昌でスポーツ行政担当相の会談を開き「スポーツ交流を通じて相互理解と信頼を強化し、これを基盤に東アジアの平和共存のため努力する」とうたう「平昌宣言」を採択した。

3カ国は18年平昌冬季五輪と20年東京五輪、22年北京冬季五輪の成功のために運営ノウハウの共有などで協力を深めていく方針を確認。「日中韓のスポーツ交流と協力がそれぞれの国民に対する理解拡大の重要な礎になることを認識し、3カ国の未来志向の交流協力を定着させていく」と強調した。

☆500日前イベント、IOCバハ会長立ち会い、松野文科大臣、鈴木長官出席

東京新聞2016年9月23日
【平昌共同】
<http://www.tokyo-np.co.jp/s/article/2016092301000995.html>

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

4

難民選手団、希望の代表 リオ五輪

- ・ 全体206番目、地元ブラジルの1つ前に登場した選手団にも大きな拍手。
 - ・ 初めて編成された難民五輪選手団。
 - ・ IOCから選ばれた10人選手の出身は南スーダン5人、エチオピア1人、シリアとコンゴ民主共和国が各2人。
 - ・ 祖国からの出場は叶わなかったが、彼らはもっと大きなものを背負っている。
 - ・ 「自分たちは全ての国を代表している。希望の代表だ」とマルディニ。世界中で難民が生まれている困難な時代に特別なメッセージを伝えようとしている。
- (日本経済新聞2016/8/6)
- http://www.nikkei.com/article/DGXLASDH06H1E_W6A800C1UUB000/?uda=DGXZZ00218874021122009000000
- IOCは難民選手であれ、スポーツする権利と機会を保障しようとしている

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

5

イントロ： 有名な国連 (UN) のシンボルマーク

- ・ オリーブの葉 ⇒ 平和
- ・ 五大大陸の地球儀 ⇒ 世界平和



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

6

オリンピック・クイズ



- クイズ1. オリンピックのシンボルマークを書いてみましょう
 クイズ2. これらの各部分は何を意味していますか？
 クイズ3. これらに色を当てはめてみましょう
 クイズ4. これらの色は何を意味していますか？
 クイズ5. このシンボルマークは誰が考案したのでしょうか？
 クイズ6. このシンボルマークはどこが管理していますか？
 日本語：
 英語：

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

7

確認：オリンピック・シンボルの意味

- オリンピックのシンボルマーク：最高値のIOCブランド→TOYOTA、10年1,000億円
2014年がデビュー100年目！
- 1914年パリ会議時にクーベルタンが考案し披露
⇒ 世界へ持ち帰った
- 5色の意味：
地の白を加えて6色＝1914年当時の世界の国旗全ての色
→世界の連帯や団結
→世界平和
- 誤解：大陸の色、人種の色、肌の色、5元素等
- アオキクミアイ＝隣は補色

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

8

日本の「オリンピック教育」の不在

- ・ 学校で子どもたちに教えない教育界
- ・ 競技結果志向のスポーツ界
- ・ メダリストとメダルの色にしか関心のないメディア界
- ・ ヒーロー物語や秘話にしか関心のない視聴者

→「メダル至上主義」＝メダリストへの鮮明な記憶

☆オリンピックの知識やイメージ：平板で一様化
(スポーツ専攻学生と一般学生でも差はない)

→「オリンピック・パラリンピック教育」の重要性

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

9

確認：「オリンピズム」とは

- ・ 余り知られていない概念
- ・ 『広辞苑』にも載っていない
- ・ 平成23年度の学習指導要領の改正
→中学、高校の体育理論で学習することに
→学習したかどうかは別

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

10

「IOCオリンピック憲章」根本原則 (2016年JOC訳版)

1. オリンピズムは肉体と意志と精神のすべての資質を高め、バランスよく結合させる生き方の哲学である。オリンピズムはスポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探究するものである。その生き方は努力する喜び、良い模範であることの教育的価値、社会的な責任、さらに普遍的で根本的な倫理規範の尊重を基盤とする。
2. オリンピズムの目標は、人間の尊厳の保持に重きを置き平和な社会の推進を目指すために、人類の調和のとれた発展にスポーツを役立てることである。

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

11

「オリンピズム」=教育・平和思想

- ・ オリンピズムの3本柱＝「スポーツ・文化・環境」
- ・ クーベルタンの2本柱＝「スポーツ・文化芸術」
- ・ オリンピズム＝「スポーツ・文化を通じて心身ともに調和した若者の育成」⇒教育思想<「カロカガティア」>
&
「4年に一度世界中から集まり、異文化理解とフェアな競技で友情を育み、平和な社会の構築に寄与」
⇒平和思想<「エケケイリア」>

- ☆文化プログラム（芸術競技）
- ☆国連で「オリンピック休戦決議」の採択
- ☆他の世界選手権やW-CUP等との違い
→形のない・目に見えないレガシーの重要性

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

12

「オリンピズム」＝オリンピックの根本精神

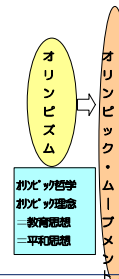
- ・クーベルタンのオリンピズムの2本柱
＝スポーツ＋文化芸術
←古代ギリシャの祭典競技
→スポーツと芸術のブレンド（融合）
- ・→「芸術競技」（1912～1948年）
クーベルタンは偽名で参加、金メダル
→「芸術展示」（1952～1988年）
→「文化プログラム」（1992年～）
- ・1994年IOCは3本目の柱：「環境」を加える。パリ100周年記念コンGRES
- ・→環境保護運動、IOC環境委員会設立、宇宙船地球号、エコロジーやサステナブル・ディベロップメント

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

13

「オリンピック・ムーブメント」とは



1. スポーツ倫理の普及、フェアプレー精神の保持と反暴力
2. スポーツ、スポーツ競技大会、組織の支援
3. **オリンピック競技大会**の定期的開催
4. スポーツを人類に役立て平和推進活動への参画
5. オリンピック運動の連帯と独立性の保持
6. オリンピック運動に反するいかなる差別にも反対
7. 女性スポーツ振興（男女平等）
8. アンチ・ドーピング
9. 競技者の健康保持
10. スポーツや選手の政治的・商業主義的悪用に対抗
11. スポーツ競技者の将来の保証
12. スポーツ・フォア・オール（スポーツ種）
13. 環境問題対策とサステナブル・ディベロップメント
14. オリンピック競技大会のレガシーの継承
15. **スポーツと文化および教育の連携支援**
16. **国際オリンピック委員会とオリンピック教育機関への支援**

・オリンピック・ムーブメントの目的は、オリンピズムとオリンピズムの価値に則って実践されるスポーツを通じ、若者を教育することにより、**平和でより良い世界の構築に貢献することである。（オリンピック憲章）**

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

14

オリンピックにおける平和運動

どのようなものがあるでしょうか？

1. 聖火リレー
2. 「オリンピック休戦」決議
3. 「国際オリンピック休戦センター」
4. 「Olympic Village 選手村」内では
5. 開会式では
6. IOCと国連の連携

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

15

1. 聖火リレー

- ・始原：1936年ベルリン大会
- ・1964年東京大会では
- ・国際聖火リレー：
2004年アテネ大会
2008年北京大会

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

16

聖火リレーの始原：1936年ベルリン大会

- ・事務総長カール・ディームの発案
- ＜4つの意味＞
- 1. **歴史的メッセージ**（古代オリンピックのたいまつ競争）
- 2. **教育的メッセージ**（国を超えた協力）
- 3. **芸術的メッセージ**
- 4. **宗教的メッセージ**（ゼウス、プロメテウス）
- ◎**平和メッセージ**：通過国の協力・連帯・友好・伝達

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

17

1936年ベルリン大会の聖火リレー

- ・古代オリンピアの遺跡で採火・スタート、オリンピアアバルカン半島北上、7カ国をリレー
- ・11日12夜、3,075km、3,075人
- ・ラジオ放送のために電信隊
- ・ナチスのバルカン侵攻ルートにもなる
- ・トーチはステンレス鋼=砲身
- ・ベルリンオリンピックのエンブレム入りの鐘「平和の鐘」が鳴る演出



1936年ベルリン大会の聖火リレー
選手村の鐘、1936年

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

18

[illegible]

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY 2017都高体連オリンピック講演 19

1964年東京大会の最終聖火ランナー： 平和メッセージ

- 坂井義則（早稲田大学1年生競争部）
- 8月6日原爆投下、広島近郊で誕生
- アトミックボーイ

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演



20

- TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY 2017都高体連オリンピック講演 20

2004年アテネ大会国際聖火リレー

- 2004年アテネ大会：国際聖火リレー
- 愛知県稲沢市の中学生がランナー
- 初めて、聖火が世界中を回った：
“ Pass the Flame, Unite the World”
「聖火をつないで世界を一つに」（アテネ）
- 大成功⇒世界中で平和メッセージ
- 「スpondフォロイ」平和の使者の役割



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック機演

21

- TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY 2017都高体連オリンピック講演 21

2004年アテネ大会国際聖火リレー

- ・ 国際聖火リレー：
東京レグ
- ・ 2004年6月6日
- ・ 雨の東京駆け抜ける
- ・ 一体何のため？
- ・ 東京都の観光宣伝？
- ・ JOCの商業主義？
- ・ コカとサムソンの宣伝効果？



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高度運動オリンピック構想

22

- TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY 2017都高体連オリンピック講演 22

2008年北京大会の国際聖火リレー

" Light the Passion, Share the Dream"
(情熱に火をつけ、夢を共有：点燃激情、伝達夢想)

実際は各地で妨害やテロ
⇒点燃激情、伝達夢想
→点燃激動・伝達無想
日本では長野でリレー



TOKYO METROPOLITAN OLYMPIC STADIUM

2017都高体連オリンピック講演



23

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY 2017都高体連オリンピック講演 23

2008年国際聖火リレー：
オリンピック市3月24日稲沢中学校生徒がランナー

- ・ オリンピア市での妨害
- ・ 採火式：国境なき記者団乱入他

稲沢市の中学生服部君がオリンピックの
メインストリートの聖火ランナー

フリー・チベットの聖火リレー妨害：
オリンピック

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

24

- TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY 2017都高体連オリンピック講演 24

2008年北京大会国際聖火リレー：長野レグ

- ・長野4月26日聖火到着式：市内の公園
- ・フリー・チベット、国境なき記者団、右翼 vs 中国留学生2,000人の聖火防衛隊？



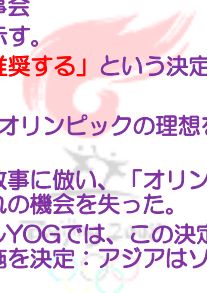
TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

25

2008年 国際聖火リレー騒動後のIOCの対応

- ・2009年3月26日IOC理事会
国際聖火リレーに難色を示す。
「開催国内限定ルートを推奨する」という決定
- ・IOCは5大陸の連帯というオリンピックの理想を捨て去る。
- ・「スpondフォロイ」の故事に倣い、「オリンピック休戦」発動のおふれの機会を失った。
- ・但し、2010シンガポールYOGでは、この決定以前に国際聖火リレー実施を決定：アジアはソウルでリレー！



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

26

古代オリンピックの祭典競技

- ・エケケイリアechecheiria=オリンピックの聖なる休戦
英語：Olympic Truce：スpondフォロイが告げ回る
- ・古代ギリシャの都市国家（ポリス）は慢性的戦争状態
- ・オリンピックの祭典競技のため、競技者と見物人の旅の安全確保のための紛争・戦争中止の制度（ギリシャ人としてのアイデンティティ確認も）
- ・期間：祭典競技の2ヶ月前から終了後含め約3ヶ月間
- ・協定破りは、オリンピックの祭典競技への参加資格剥奪例：アルカディアが休戦協定を破り、参加資格失う
- ・近代オリンピック復興時にクーベルタンによって平和思想として推奨されたが、実現せず



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

27

IOCの「オリンピック休戦」活動

- ・1992：国連が旧ユーゴスラビア制裁
IOC はバルセロナ大会への道を開くよう国連に働きかける
- ・1993：1994年リレハンメル冬季大会の前年に、国連で初の総会決議
Building a peaceful and better world through sport and the Olympic ideal
- ・以後、夏冬大会の前年に国連総会で決議
- ・1994：リレハンメル冬季大会時にIOCは1984年冬季大会を開いた内戦中のサラエボを訪問視察
- ・1994：国連は「スポーツとオリンピックの理想の国際年」に指定



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

28

最近の国連総会「オリンピック休戦決議」

- ・2011年11月11日：国連総会で193の全加盟国が2012年ロンドン大会のための「オリンピック休戦決議」採択
- ・2013年10月29日：国連総会で2014年ソチ大会のための「オリンピック休戦決議」採択
- ・2015年10月26日：国連総会で2016年リオ大会のための「オリンピック休戦決議」採択
- ・オリンピック開会式の1週間前からパラリンピック終了後の1週間まで、世界中の紛争や戦争の停止をアピール！
- ・残念ながら、守られたことがない！



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

29

「オリンピック休戦センター」

- ・2000年：IOCはギリシャ政府と共に国際オリンピック休戦センターと国際オリンピック休戦財団設立
理事には日本人の明石康氏（元国連事務次官）
International Olympic Truce Foundation (IOTF)
International Olympic Truce Center (IOTC)
- ・アテネ：実質的事務所
- ・オリンピック：象徴・名誉事務所
- ・ローザンヌ：法務的事務所



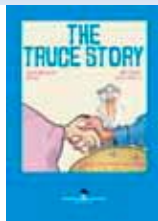
TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

30

オリンピック休戦センターの活動

- 2004年：IOTCは「五輪休戦」のコミック本を発行（日本語は無）
- 平和教育、休戦活動
- WEBSITEの充実
- 国際フォーラムの開催
- YOGでのブース設置



“ If we can have peace for 16 days, then maybe, just maybe, we can have it forever
(ババント 町文相国連スピーチ：2003年)

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

31

JOA、日本スポーツ学会のオリ休戦アピール

- 2004年メトロ紙
- オリンピック休戦広告
- 山下泰裕+アテネ市長
- イラスト：
オリーブの葉+兵士
(銃を置き、手に聖火)
- ロゴ：古代の人々は祭典
中には武器を捨てた
- 多くの賛同者のサイン



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

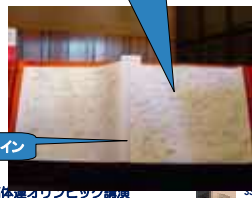
2017

2

選手村Olympic Village内：休戦賛同者のサイン

- 2004年アテネ大会より設置が始まる
- 2006年トリノ大会のオリンピック選手村内の平和運動
- IOCロゴ会長「オリンピック休戦の賛同の壁」サイン

岸本さんのサイン



トリノ市内のオリンピック
休戦サインブック

斜本のサイン

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

33

2012年ロンドン大会選手村： 日本選手団は？

- 上村春樹日本選手団団長
- 精力善用・自他共栄



- さくらジャパン
(女子ホッケーチーム)

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

34

ローザンヌのIOCのオリンピック・ミュージアムでの展示

- 大会後のオリンピック休戦賛同者のサインの壁
- どうなっている？
- 2012年 ロンドン大会の壁
- スイスのローザンヌのIOCのオリンピック・ミュージアムに5本が展示
- それ以外は行方不明？
- 他大会のものは？



TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

35

パラリンピックの選手村内では？ 国連障がい者人権宣言賛同者のサインの壁

- 2014年ソチ・パラリンピック大会
- 選手村内に国連障がい者人権宣言賛同者のサインの壁を初めて設置
- ソチ組織委員会の人権問題の力モフラージュ？
- 2013年ロシア政府は「同性愛禁止法」制定→世界中の反対運動
- 2014年ソチ大会開会式、多くの国家元首がボイコット
- 日本の安倍首相は出席した！

<http://www.paralympic.org/news/paralympic-wall-unveiled-sochi-2014>

TOKYO METROPOLITAN UNIVERSITY

2017都高体連オリンピック講演

36

オリンピック開催中のその他の平和運動

- 2006年トリノのオリンピック平和運動
(左) 2006 Torino: メダル・プラザの中のグリーン・ルームでオリンピック休戦賛同署名のアスリート (IOCHP)

5. 開会式の平和メッセージ ＝鳩の象徴的演出

- (右) 2006 Torino開会式: 平和のシンボル鳩の人型
オヨ-ジは「イマジン」の朗読→平和メッセージ
- (左) 選手団の上に横断幕＝ハトとオリーブの小枝のスライド投射

6. オリンピックと平和運動: 国連UN

- 国連 (UN: United Nations) のオリンピック平和活動
- Olympic ideals are also United Nations ideals!
- Olympic principle is United Nations principle!
- では具体的にどのような活動?
- 国連総会でのオリンピック休戦決議
- スポーツによる平和と開発 (SDP)
- 女性委員会との連携＝人権活動連携
- IOCは国連の永久オブザーバー参加
- IOCバハ会長の特任大使就任

国連とIOCの連携: 2030SDGs

- Post-2015持続ある開発目標: 17ゴール
- 2015年9月27日国連総会にてIOCバハ会長
演説: IOCのゴールは国連のゴール
- 特に5つの目標とIOCのオリンピック・ムーブメントの連携を強調

国連: post-2015持続ある開発目標



UNのAgenda2030とIOCのAgenda2020

- 目標3: あらゆる年齢の**すべての人々の健康的な生活**を確保し、福祉を推進する
- 目標4: すべての人々に**包摂的かつ公平で質の高い教育**を提供し、生涯学習の機会を促進する
- 目標5: **ジェンダーの平等**を達成し、すべての女性と女児のエンパワーメントを図る
- 目標16: 持続可能な開発に向けて**平和で包摂的な社会**を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
- 目標17: 持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、**グローバル・パートナーシップ**を活性化する

ところで、「平和」とは一体何か？

- ・「平和」という語は詔（ミコトノリ）？
- ・誰もが反対や否定できない免罪符？
- ・しかし、曖昧な概念！



- ・単に紛争や戦争がない状態
→「**消極的平和 Negative Peace**」
(ヨハン・ガルトゥング)

参考：「**積極的平和主義 Proactive contribution to peace**」(安倍政権)=先に率先して行う(戦争による)平和貢献⇒平和なのか？

「積極的平和 Positive Peace」とは

- ・「**構造的暴力**」(≡社会的不正)の無いこと
=社会的公正(ヨハン・ガルトゥング)
(個人的で直接的な暴力の不在=「**消極的平和**」)
- ・「**構造的暴力**」とは：抑圧、搾取、人権無視など社会構造的な問題
- ・「**平和とは、人間の基本的な必要が全て満たされた社会の状態**」(藤田,2003)
- ・→「**人間の基本的必要**」：生存・福祉・自己(アイデンティティ)・自由=人間が人間として生きていくために最低限必要なもの(藤田,2003)

7. 2020年東京大会に向けて

例1：東京都の取り組みの一つ
=「**世界ともだちプロジェクト**」
→参加予定の206のNOCを5大陸毎に5ヶ国ずつの国別割り当て表(国割り表)を作成し、その国々の歴史・文化・環境・慣習などを調べたり、学校と交流したりする

・例：カナダが入っているグループと交流すると：
G30：カナダ、オーストリア、チャド、バングラデッシュ、ミクロネシア
G31：カナダ、アゼルバイジャン、コモロ、ブータン、フィジー
G32：カナダ、ベラルーシ、コンゴ共和国、ブルネイ・ダルサラーム、グアム

・参考：1998年長野冬季オリンピック大会における「**1校1国運動**」

高校でできること：組織委員会の5本柱に合わせ

1. スポーツ・健康(健やかな市民や長寿生活)
 2. 自然・文化ツーリズム(観光、町づくり、持続可能性)
 3. 文化・教育(ヒューマン・レガシーを大切に！)
 4. 経済・テクノロジー
 5. 復興・All Japan 世界発信
- ◎関わり方「**する・見る・支える・交わる・学ぶ・伝える**」
◎テーマ例 X 6つの関わり ⇒ 実践
スポーツ
オリンピック・パラリンピック学習
文化プログラム
聖火リレーと平和運動
ボランティア
国際交流・世界ともだちプロジェクト

高校でできること：24の実践 オリビズムの3本柱+平和に合わせて

関わり テーマ	する	観る	支える	交わる	学ぶ	伝える
スポーツ						
文化	文化プロ参加	文化プロ鑑賞	文化プロボラ	異文化プロ	学習会WS	伝達講習会WS
環境						
平和	オリ休戦サイン	聖火リレー	聖火リレーボラ		講座	伝達講習会WS

オリンピックと平和運動：2020年東京大会の課題

- ①2020年東京大会の平和運動：
日本らしさを出しながら世界への発信をどうする？
- ②高校での活動：
オリンピックの平和運動、各校でどのように展開するのか？

オリンピック・クイズ



クイズ1. オリンピックのシンボルマークを書いてみましょう

クイズ2. この各部分は何を意味していますか？

クイズ3. これに色を当てはめてみましょう
左から：

クイズ4. これらの色は何を意味していますか？

クイズ5. このシンボルマークは誰が考案したのでしょうか？

クイズ6. このシンボルマークはどこが管理していますか？
日本語：
英 語：

<参考>

全問正解：オリンピックおたく
5問正解：オリンピック博士
4問正解：オリンピック知識人
3問正解：オリンピック常識人
2問以下：オリンピックをもう少し勉強しましょう

□

「城西大城西高校の強化について ～短距離ブロック中心に～」

東京都高体連陸上競技専門部 巣鴨高等学校 黒木 義郎

I. はじめに

近年、東京都短距離ブロックは全国を代表する選手を多く輩出している。直近3年間のインターハイ・国体では短距離種目（100m・200m・400m・4×100mR・4×400mR）において多くの優勝者及び決勝進出者を排出している。特に2015年は大嶋健太、エドバー・イヨバ（共に東京高校）のインターハイ100mアベックでの2連覇、サニブラウン・アブデル・ハキーム（城西大城西）の世界ユース100m・200m2冠、東京高校女子4×100mRチームがアジアジュニア新記録で日本選手権リレー優勝等の大きな活躍があった。

これまで、東京都の陸上競技は「東京高校」「八王子高校」「白梅学園」等が牽引する形であったが、城西大城西高校（以下「城西」とする）に山村貴彦先生が顧問として就任後、三武潤（800m インターハイ・国体優勝）を始め優秀な選手が次々と現れ、特にサニブラウンの入学後は、短距離種目において大きなレベル向上が見られた。本研究では、文献、取材等を通して、城西の強さの秘密を明らかにし、今後の指導の一助とすることを目的とした。

表1 近年の城西大城西高校 短距離種目の主な実績について

2014 年	2015 年	2016 年
インターハイ 200m サニブラウン・A・ハキーム 21 秒 21(-1.6) 2 位 インターハイ 400m リレー 40 秒 28 4 位 日本ユース 200m サニブラウン・A・ハキーム 21 秒 09(+1.4) 優勝 国 体 100m サニブラウン・A・ハキーム 10 秒 45(0.0) 優勝	インターハイ 200m サニブラウン・A・ハキーム 20 秒 82(-1.5) 優勝 インターハイ 400m リレー 40 秒 63 6 位 世界ユース 100m・200m 2 冠 サニブラウン・A・ハキーム 世界陸上 200m 準決勝進出 サニブラウン・A・ハキーム	インターハイ 400m リレー 40 秒 63 6 位 ダイヤモンド L 100m サニブラウン・A・ハキーム 10 秒 22(+1.0) 東京高校新記録

II. 城西大城西高校陸上競技部について

1. 指導者

指導者は4名体制で行っているが、短距離ブロックについては2名で行っている。

- 1) 山村貴彦 経 歴 : 大阪清風高校→日本大学→富士通→サイボウズ
戦 歴 : 2000 年シドニー五輪出場 2001 年・2003 年世界陸上出場 etc
自己記録: 400m 45 秒 03 (日本歴代 2 位)

日本陸連 U19 短距離育成強化スタッフ

2) 内藤真人 経 歴 ：中京大中京高校→法政大学→日本大学大学院→ミズノ
 戦 歴 ：2004 年 アテネ五輪・2008 年 北京五輪出場
 2001 年・2003 年・2005 年・2007 年 世界陸上出場 etc
 自己記録：110m ハードル 13 秒 43 日本歴代 2 位
 2003 年 110m ハードル 日本記録樹立

2. 選手

2016 年度は男子 6 2 名、女子 3 1 名、計 9 3 名在籍している。そのうち短距離ブロックは男子 4 0 名、女子 1 7 名、計 5 7 在籍し、さらに数名の中学生も在籍し、一緒に練習を行っている。

3. 練習場所

曜日	場 所	時 間
月	□校庭・城北	□□ □□～□□ □□
火	□校庭・城北	□□ □□～□□ □□
水	□休養日・城北・競技場	□
木	□校庭・城北	□□ □□～□□ □□
金	□城北	□□ □□～□□ □□
土	□城北・競技場	□□ □□～□□ □□
日	□休養日・城北・競技場	□□ □□～□□ □□

通常の練習場所は学内の校庭となるが、使用できるスペースはハンドボールコート 1 面分である。城北中央公園（表内の城北）で練習を行う場合はクラブで所有する自転車で移動する。また、競技場は主に日本大学グラウンドや夢の島競技場にて練習を行っている。

Ⅲ. 城西大城西の強さ秘密について

1. 指導方針

「10 人いれば 10 通りの練習方法があって良い。環境で陸上競技をするのではなく、工夫と考え方で競技をする」を基本理念としている。また「日本一を目指す」ことを目標に掲げている。しかし、全員が全国レベルの選手ではない。選手各自が自分自身でしっかりとした目標を持ち、上位の大会への進出や自己記録を目指せるよう指導している。

2. 選手勧誘について

選手勧誘をする際は、記録等の情報のみで判断することではなく、顧問が実際に自分の目で「体型」や「疾走動作」を見て“自分がその選手を育てることができるか”を基準に声かけを行っている。中学での活躍がめざましい選手にも声をかけるが、選手の「将来性」考えて声かけをすることもある。しかし、推薦で獲得できる選手はほんの僅かであり、多くの選手は自ら志願して入学してくる。ちなみに全国から入学希望の連絡が来ているようだが、城西は寮を持っておらず、他府県であるようないわゆる“国内留学”はない。

3. 部員数の増加と要因

近年、部員数が増加傾向にあるが、その要因として上記の指導方針があり、「城西で陸上をやりたい！」と考える選手が増えていることが第一であることは言うまでもない。それに加えて「池袋」という場所が通学しやすい環境ということも一因と考えられる。特に「湘南新宿ライン」（2001年12月運行開始）、「副都心線」（2013年3月運行開始）等、都内へ通いやすい交通網（特に神奈川県）が発達したため、多くの優秀な選手が入学してくるようになったと考えられる。

IV. 筆者が感じたこと

日頃から陸上関係の仕事を通じて山村先生と接しているが、まず感じることは「研究熱心である」ということである。自らも一流アスリートであったが、その経験に新しいトレーニング方法等を重ねて、選手育成に取り組んでいるように感じた。またサニブラウンの活躍について批判する人もいるが、彼は日本で生まれ、小学校時代から山村先生の的確な指導を受け努力してきたことが、現在の結果につながっていると考ええる。

練習においては、開始直後は全員揃ってサーキットトレーニングや補強運動等、同じメニューを行っており、個人スポーツの中にもチームとしての一体感を感じた。練習後半は“フリー練習”となり、各自が目的を持って様々なメニューに取り組んでいた。ここに「10人いれば10通りの練習方法、工夫と考え方で競技する」という指導方針が生徒たちの心にしっかり刻まれていると感じた。

都市部の学校では「グラウンドが狭い」「他のクラブと練習が重なって十分な練習ができない」と感じることもあるかもしれないが、城西の練習を取材した後、環境面の言い訳は一切できないと思うと同時に、工夫次第で十分に良い練習に取り組むことができると感じた。

最後に、本研究を進めるにあたり、城西大城西高校山村貴彦先生、内藤真人先生、さらには選手の皆様に大変なご協力を頂きました。ここに感謝の意を表します。

(以 上)

「全国高校総体参加選手対象アンケート調査の結果から」

～紙上発表～

東京都高体連研究部 第二分科会代表 卓球男子専門部 日本大学豊山高等学校 田中 玄太

1. はじめに

研究部第二分科会では平成 19 年度より 10 年にわたって全国高校総体東京都代表選手を対象にしたアンケート調査を行ってきた。その間、調査項目の変化はあったものの対象母集団の特性を生かした研究が続けられてきている。特に平成 23 年度以降は以下に記した 3 つの観点からほぼ同一内容でアンケートを実施している。継続的考察の観点から、昨年同様の観点かで考察・比較するようにした。

(1) 今年度の調査～質問項目（本稿最終ページアンケート用紙参照）

① 食生活について

② 体調および怪我について

③ 精神的側面について

(2) 調査対象は平成 28 年度全国高校総体東京都参加選手 1～3 年生（7 月 9 日の結団式参加者を対象にアンケート用紙を配布し当日に回収した）。回答者の学年、性別は右の表のとおり。

	男 子	女 子	合 計
1 年生	50	49	99
2 年生	85	59	144
3 年生	149	105	254
合 計	284	213	497

(3) アンケート集計結果

基本的には男女別データとして取り扱い、その傾向や特性を考察した。また、必要に応じてこれまでの調査結果および競技種目間の比較を試みた。

2. アンケート結果より

以下のアンケート結果における数値は全て欠損値を除く有効回答の全体に対する割合（有効％）で示している。

【項目①】 食生活について

(1) バランスをとる中でも重要と考える栄養素

栄養摂取はスポーツ選手にとって日々の練習に加えて非常に重要な要素となっている。食生活のバランスを取る上で重要な栄養素としては昨年同様、男女とも炭水化物やタンパク質という回答が多い傾向を示した。その中で、昨年よりもタンパク質に対する意識の高まりが、特に男子において顕著に見られた。男子は昨年炭水化物 43.4、タンパク質 38.3 であった。エネルギーよりも筋力や骨格といった、体作りに意識付けがされ、摂取している傾向にあると言えよう。

	男 子	女 子
炭水化物	30.0	32.9
脂質	0.4	0.9
タンパク質	49.3	43.2
ビタミン	16.1	17.8

(2) 特に意識している栄養補給

特に意識している栄養補給に関して上位 3 種を右の表に示した。

男子ではカルシウム、ビタミン C、鉄分の順となっていたが、女子では鉄分、カルシウム、ビタミン C の順であることが特徴である。女子は月経による血液の損失があるため男子よりも必要な鉄分が多いということを意識している選手が多いことを示している

	男 子	女 子
カルシウム分	40.1	28.6
鉄分	16.0	30.5
ビタミン C	29.4	22.4

のだろう。また、男女関わらずアスリートは汗などによる鉄分の排出も多く、激しい運動することで物理的に赤血球が破壊されることも多い。貧血状態ではパフォーマンスが著しく低下することを理解して意識的に鉄分を摂取している選手が多いと考えられる。また、ビタミン C は鉄分の吸収を高めるために必要な栄養素であり、そのような意味でアスリートに必須の栄養補給と言えるだろう。

(3) 朝食について

摂取の状況を「しっかり」「普通」「少し」「食べたりたべなかったり」「ほとんど食べない」と、5 段階に分けて質問したところ、女子に関しては「ほとんど食べない」という選手は 1 人もいなかった。また、女子は「しっかり食べる」は増加している一方で、男子は昨年 61.1 から大幅に減少しており、朝食を摂ることの重要性への意識が低下していることが示唆される。朝食を摂ることによって体温が上がり学校の授業にもトレーニングにも集中して取り組めるという効果があるので意識してほしい。

	男 子	女 子
しっかり食べる	51.6	69.2
ほとんど食べない	3.2	0.0

(4) サプリメントについて

サプリメントを使用していると回答した選手は昨年と同等であった。実際に摂っているサプリメントは男子ではプロテインが圧倒的に多く、女子ではプロテイン以外に不足しがちな鉄分を補うサプリやアミノ酸を含んだサプリなどが多く挙げられていた。

	男 子	女 子
使用することがある	21.7	11.2

(5) 補食について

補食を必ず摂っていると答えた選手は男女共に昨年と近い数値であった。しかしながら、半数には程遠い数値となっている。必要以上にエネルギー補給をすることはアスリートにとってマイナスだが、早朝から夜まで練習や学校の授業でエネルギーを消費する高校生アスリートは必要に応じて補食を摂ることは重要である。正しい知識を学び、より高いパフォーマンスを行うために、より多くの選手がしっかりと補食についても考えていってほしい。次の質問事項の「栄養指導について」においては増加傾向にあることから、今後の推移に期待して調査していきたい。

	男 子	女 子
必ずとっている	44.4	36.8

(6) 栄養指導について

昨年度までは女子のほうが多かったが、今年度は男子が 8.9 増で同等の数値となり、男子の意識の向上や栄養指導の機会の増加が著しくみられた。各競技団体が栄養指導についての重要性を感じ、積極的に学んでもらおうという姿勢が表れていると考えられる。

	男 子	女 子
受けたことがある	52.5	53.4

【項目②】 体調および怪我について

(1) 現在の体調

現在の体調に関して、男女とも半数近くが絶好調または好調と答えていた。日々、厳しいトレーニングを積んでい

る中でも疲労を残している選手は1割程度ということは体調管理にも気を配っていることの表れだろう。

【項目①】のアンケート結果でも普段から食生活や栄養補給へ高い意識を持っていることが示されているが、そのような普段からの意識付けが功を奏しているとも言えよう。

	男 子	女 子
絶好調・好調	58.9	48.6
やや疲労ぎみ・疲労困憊	11.9	10.2

(2) 部活動中の怪我について

「長期間にわたる治療を必要とする怪我をしたことがありますか」という質問に対しては男女とも3分の1程度の選手がはいと答えている。その発生場面は6割近くが通常練習であった。これは通常練習を行っている時間が一番長いことから考えても予想通りの結果と言えよう。また、その怪我の状況は「完治」「ほぼ完治」と答えた生徒が多数を占め、昨年度よりも未完治（「だましだましの状態」「リハビリ中」）の数値が特に女子で半数程と、著しく低下した。

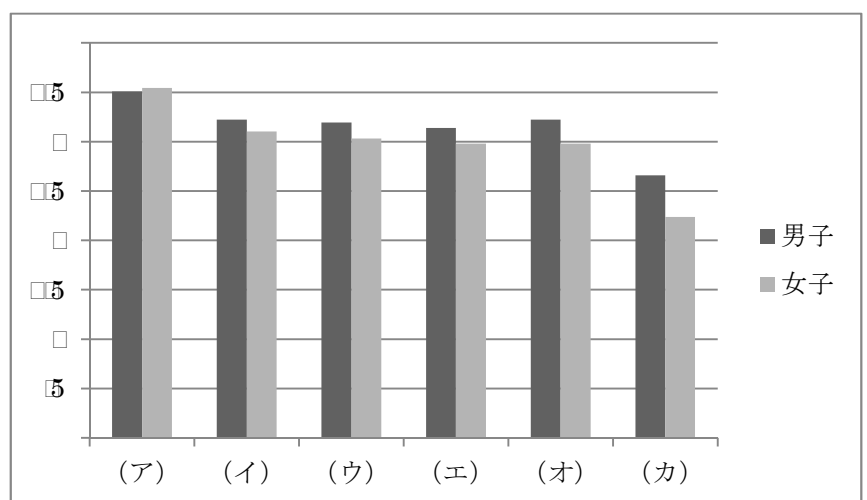
怪我の原因は自分に過失があったと答えた選手が男女とも最も多く、それらの選手の多くは疲労蓄積のためと答えている。この数値は男女ともに増加しており、特に男子においては32.7と著しく増加している。この傾向からも常日頃厳しい練習を積んでいる選手にとって疲労の蓄積をいかにして防止するかは非常に重要なことだと言えよう。また、「アップ不足」の数値は男子で8.5減少した一方で、女子は0.0から増加した。

		男 子	女 子
長期治療の怪我	ある	29.2	31.0
怪我の発生の場面	通常練習	51.3	68.7
	練習試合・公式戦	37.2	28.4
現在の状況	完治・ほぼ完治	86.4	83.3
	未完治	13.6	16.7
怪我の原因	自分に過失	42.1	47.7
	相手に過失	13.2	9.2
	やむを得ない事故	40.8	30.8
怪我の理由	自分の技量不足	19.4	17.2
(自分に過失のうち)	疲労蓄積のため	67.7	62.1
	アップ不足	6.5	6.9

【項目③】 精神的側面について

(1) メンタルチェックシートを利用した分析

一般の「メンタルチェックシート」(No.1 メンタルトレーニング、西田文郎、p.238)を利用して精神的側面を分析した。質問項目(ア)～(カ)について「認識の強度」を数値化し、その平均値を求めた。「常にそう思う」を4点、「たまにそう思う」を3点、「あまりない」を2点、「まったくない」を1点とした。質問項目は以下の通りである。



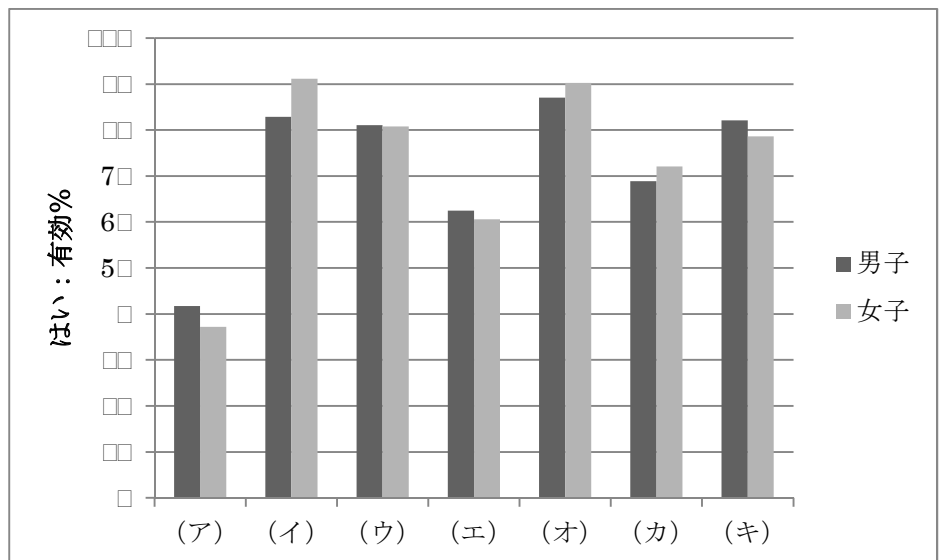
- (ア)練習の時から、いつも目標を意識している
- (イ)自分は今の競技に向いていると思っている
- (ウ)将来もこの競技をずっと続けたいと思っている
- (エ)一度目標を決めたら、必ず達成する自信がある
- (オ)自分の力を信じている
- (カ)将来、自分は必ず大物になると思っている

昨年と類似した結果が見られた。(ア)については男女とも 3.5 点を超える高い数値となっており、トップアスリートとして常に目標設定を行うことの重要性がよく表れている。また、(カ)の質問項目は「大物」という表現に対してやや抵抗があったためか平均値は低くなっているが、(イ)～(オ)の質問項目は男女とも軒並み 3 点近くであり、やはり東京都代表として選ばれたことも選手ひとりひとりの自信へとつながっているのではないかと考えられる。

(2) メンタルトレーニングについて

日々の練習の中でどのようなメンタルトレーニングを実施しているかという質問では次の(ア)～(キ)の項目を用意した。

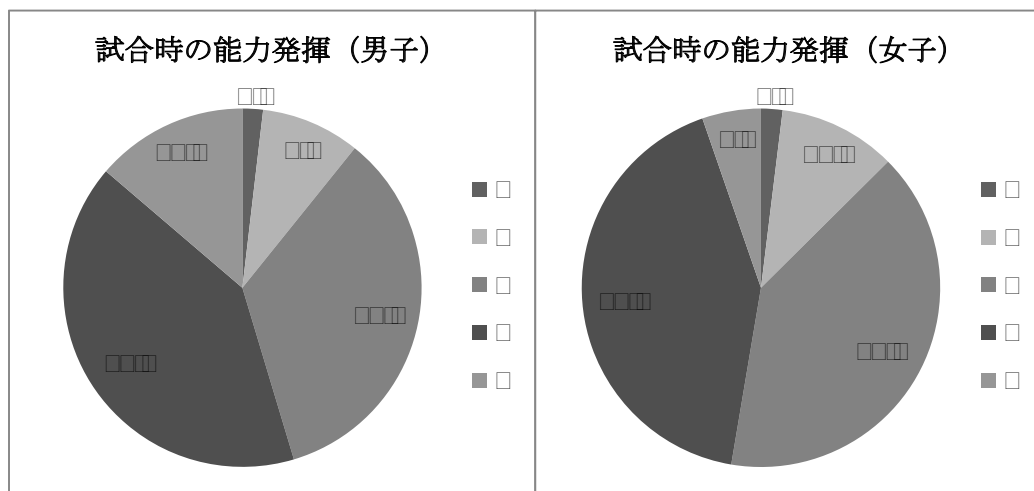
- (ア)スポーツ心理テスト等自己分析をしたことがある
- (イ)自分のやるべき事、やりたいことを確認しやる気を高めている
- (ウ)音楽を活用し気持ちの切り替えをしている
- (エ)常にプラス思考で物音を考えている
- (オ)周囲との調和をはかり、気持ちよく練習や試合に臨めるようにしている
- (カ)一日を通じて自分自身を調整し、常にベストコンディションを保つようにしている
- (キ)イメージトレーニングを大切にして、実践している



こちらも昨年と類似した結果が見られたが、(エ)の項目において男女共に昨年より低い数値であった。また、スポーツ心理テスト等による自己分析をしたことがある選手は今年も低く、なかなか各競技団体に有効に活用できていない一面もうかがえる。このあとに出てくるデータにも「心」、メンタルの重要性は選手自身が感じている部分であるので、今後の発展に期待したい。(イ)の項目の実施率の高さは前項目の「練習の時からいつも目標を意識している」選手が多いことにも通じるものだろう。また、(オ)の項目の実施率が高いことから、団体競技に限らずトップの選手は常に周囲との調和をはかって「チームとして」仲間と切磋琢磨していることがうかがえる。

(3) 試合時の自己能力発揮

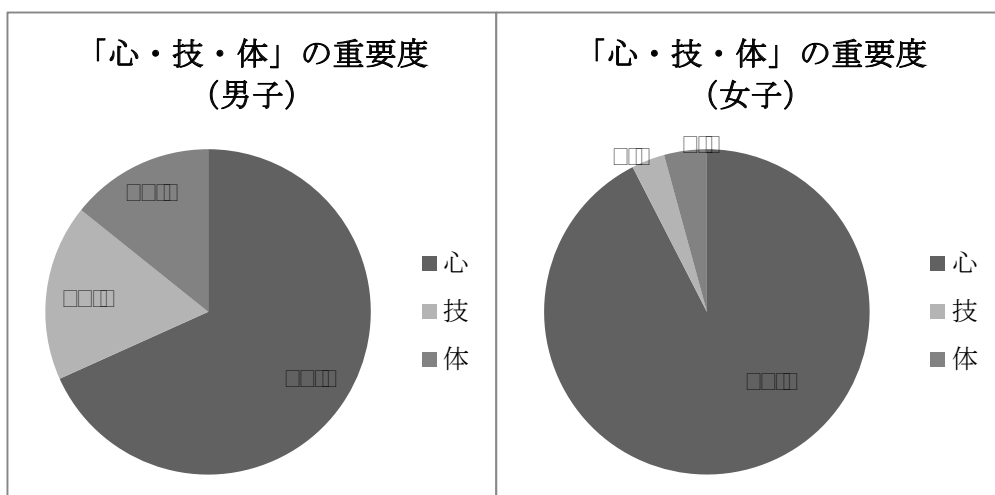
試合時にどのぐらい自分の能力をはっきりできるかという質問に対して「いつも出し切れる」を5点「出しきれない」を1点として自己評価してもらったところ、その分布は以下のグラフのようになった。平均は男女とも 3.4 点近く



となった。男子の方が 5 点と回答した選手が女子と比較して 8.5 ポイント高かったことから、男子の方が強い自信を持って試合に臨んでいる選手が多い傾向にあるのだろう。

(4) 試合時における「心・技・体」の重要度

試合時において一番重要な要素は「心・技・体」のうちどれと考えるかという質問に対して、男女とも圧倒的に「心」と答えた選手が圧倒的に多かった。特に女子の場合は9割を超える選手が「心」と答えており、メンタルトレーニングの重要性を示す結果と



なっている。試合に至るまでには技術を高めたり、体力を増強させたりすることも重要であるが、最終的な試合の場面で力を発揮するためには精神面の強さが最も重要だと選手自身が感じているのだろう。

(5) 精神面の強化方法

「精神面での強化をはかるトレーニング方法を具体的に教えて下さい」という自由記述の質問項目に対しては 300 近い回答が得られた。その中で、「イメージトレーニング」という回答が 3.4 と目立ったが、一方で、「走り込み」、「ラントレ」、「素振り」、「自分を追い込む」といった練習量に関する回答も多く見られ、精神面の強化方法に練習量に頼る選手が多いことが、疲労蓄積による怪我の発生とも大きく関連しているではとも考えられる。今後も追及調査していきたい。

3. おわりに

最後に、本アンケート調査の集計にあたり、データ集計処理をし、基礎資料を作成して下さった早稲田大学グローバルエデュケーションセンター助教朝倉雅史氏に感謝したい。また、本アンケートの実施にあたり、東京都高体連事務局の方々に配布や回収など多大なるご協力をいただいたことにも感謝したい。

競技名	学校名	高校	平成 28 年度
-----	-----	----	----------

* 該当項目に○印を付けて下さい

(学年) : ①1年 ②2年 ③3年 (性別) : ①男子 ②女子

【1】食生活について

- (1) バランスをとる中でも重要と考える栄養素
①炭水化物 ②脂質 ③たんぱく質 ④ミネラル ⑤ビタミン ⑥その他 ()
- (2) 特に意識している栄養補給
①カルシウム分 ②鉄分 ③ビタミンC ④コラーゲン ⑤食物繊維 ⑥その他 ()
- (3) 朝食は
①しっかり食べる ②普通 ③少ししか食べない ④食べたり食べなかったり ⑤ほとんど食べない
- (4) 栄養摂取の方法について ~
- (a) サプリメントを使用することがある ①はい ②いいえ
- *①の回答者のみ** 具体的に ()
- (b) 補食(栄養価を考えた間食)を必ずとっている ①はい ②いいえ
- (c) 栄養指導を受けたことがある ①はい ②いいえ

【2】現在の体調及び怪我について

- (1) あなたの体調は ～ ①絶好調 ②好調 ③普通 ④やや疲労気味 ⑤疲労困憊
(2) 部活動中の怪我についてお聞きます。

長期間にわたる治療を必要とする怪我をしたことがありますか　～　①はい　　②いいえ

*①の回答者のみ 以下の設問へ

- (a) いつ ; ① 1 年の時 ② 2 年の時 ③ 3 年の時
(b) 場面 ; ① 通常練習 ② 練習試合 ③ 公式戦 ④ その他
(c) 内容 ; (例) 右足首ねんざ 《 _____ 》
(d) 現在 ; ① 完治 ② ほぼ完治 ③ だましだましの状態で不安 ④ 怪我完治せずリハビリ中
-)(2) の怪我の原因は ① 自分に過失 ② 相手に過失 ③ やむを得ない事故であった ④ その他

*①の回答者のみ その原因は ①自分の技量不足 ②疲労蓄積のため ③アップ不足のため ④その他

【3】『健康と安全』～その精神的側面について

- (1) 以下の(a)～(f)の回答選択肢；①常にそうである②たまにそうである③あまりない④全くない
- | | | | | | |
|---------------------------|---|---|---|---|---|
| (a) 練習の時から、いつも目標を意識している | ～ | ① | ② | ③ | ④ |
| (b) 自分は今の競技種目に向いていると思っている | ～ | ① | ② | ③ | ④ |
| (c) 将来もこの競技をずっと続けたいと思っている | ～ | ① | ② | ③ | ④ |
| (d) 一度目標を決めたら、必ず達成する自信がある | ～ | ① | ② | ③ | ④ |
| (e) 自分の力を信じている | ～ | ① | ② | ③ | ④ |
| (f) 将来、自分は必ず大物になると思っている | ～ | ① | ② | ③ | ④ |
- (2) 日々の生活・練習の中でどのような“メンタルトレーニング”を実施していますか
- | | | |
|--------------------------------------|-----|------|
| (a) スポーツ心理テスト等自己分析をしたことがある | ①はい | ②いいえ |
| (b) 自分のやるべき事、やりたいことを確認しやる気を高めている | ①はい | ②いいえ |
| (c) 音楽を活用し気持ちの切り替えをしている | ①はい | ②いいえ |
| (d) 常にプラス思考で物事を考えている | ①はい | ②いいえ |
| (e) 周囲との調和をはかり、気持ちよく練習や試合に臨めるようにしている | ①はい | ②いいえ |

(f)一日を通じて自分自身を調整し、常にベストコンディションを保つようにしている ①はい ②いいえ

(g)イメージトレーニングを大切にして、実践している ①はい ②いいえ

(3) 試合でどのくらい自分の能力を出し切れますか (5段階で)

出し切れない 1 2 3 4 5 いつも出し切れる

(4) 『心・技・体』、試合時において一番重要な要素と考えるのは ～ ① 心 ② 技 ③ 体

(5) “精神面の強化”をはかる トレーニング方法 を具体的に教えてください。

--

ご協力有難うございました

新たな歴史が刻まれた — 空手道 2016 —

東京都高体連陸上競技専門部 帝京高等学校 手塚 智幸

1. 2016年のできごと

2016年は、日本の空手道界にとって歴史的な年となりました。□

5月：第44回全日本選手権空手道大会個人組手優勝者に、天皇盃・皇后盃を下賜されることが決定。□

8月：2020東京オリンピックの追加種目として、「空手」が正式に決定。□

12月：第44回全日本空手道選手権大会に天皇陛下がご来臨された。□

2018ユースオリンピックに「空手」の採用が決定。□

2020東京オリンピックの競技会場が、「日本武道館」に決定。□

□

2. 空手道の普及・発展

多くのメディアでも取り上げられるようになった空手道競技ですが、より普及・発展させるために現在でも様々な取り組みを行っております。□

- ・中学校武道必修化に伴う活動□

指導書の作成、指導者研修会の実施、講師派遣による授業や運動会の補助など□

- ・空手道競技のルール改正□

試合展開がより白熱するように、観客の方々がよりわかりやすいように□

- ・中学校、大学、実業団各連盟（競技団体）との連携□

選手の育成、段位の取得、進学や就職後も空手道を続けられる環境の整備など□

□

3. 高校空手道での人づくり

高校生が出場することができる国際大会が毎年行われ、高校トップクラスの選手が各大会で良い成績を上げております。競技力の高い選手は、多くの選手の目標となり、その行動は他の選手や応援して下さる方々にも影響を与えます。高校空手道部では、教育の中での空手道という観点から、競技だけでなく人としての心構えや行動まで身につけられるよう、大会ごとに啓発活動を行っております。□

- ・パンフレットへの標語の掲載（次ページのもの）□

- ・会場への標語の掲示□

- ・開会式での指導部長注意・激励□

□

空手道競技がより魅力的なものになるよう、高体連空手道専門部は今後も活動を続けて参ります。□

【提案】

空手道が競技として行われる以上、それぞれの選手、学校がその頂点を目指して練習・稽古に励み、強さを追求していくのは当然のことです。また、現在の空手界を見ると、国内の戦いに終わらず、国境を越えて戦うことも多くなりましたので、より高いレベルの技術も備えていかなければなりません。今後も強化については余念無く進めて行くところではありますが、強くなる事のみを見続けていると、ともすれば大切な人づくりの面が希薄になる事も起こりかねません。昨今の全国大会・地区大会に於いて、試合の行われるアリーナ内での行動は次第に良くなってきておりますが、練習会場や観客席での強引な場所取り、選手・チーム招集時間の遅延、大会運営スタッフの指示の無視、過剰な応援、競技会場周辺での駐車違反や他施設駐車場無断使用など、多くの問題面も起こっています。今後も同様の事が起こり続けると、様々な大会を実施する度に大会運営側の方々や支援し協賛して下さる方々、空手道を応援して下さる方々の心までも離れてしまい兼ねません。

日頃の稽古の中でも、優勝・勝利を目指した練習に力を入れて励んでいると、ともすれば人づくりの面が僅かになり、知らず知らずのうちに高ぶった心を大きくし、強くなったが故に、独りよがりの心から他者への感謝や敬意を忘れ、時には学校や地域内での行動の中にも、行き過ぎを起こしてしまい兼ねません。強い選手・チームを育てられたとしても、これでは、空手界のみで認められるに止まり、空手道以外の方々からの心を離し、評価を落とす事にもなりかねません。

そこで、今後多くの方々に支援・応援・協賛して頂ける武道としてさらなる成長を遂げていくための取り組みとして、これまで通りより強く世界で活躍できる選手を育てて行くことはもちろん、競技の素晴らしさや面白さをこれまで以上に伝えて行くことができるように研鑽を続けるとともに、周囲への心配りができる礼儀正しい魅力有る選手の育成を目指して、人格形成にもこれまで以上に精力を傾けて行く事を提案致します。

今、高体連空手道専門部は「**最強の人から最高の人へ**」を合い言葉に人づくりの進展を目指しております。この理念を受けて、努力・勇気・敬意・感謝の四つの心を持てる“人づくり”を提唱し、大会毎にこの言葉を目にし耳に聞けるように掲示、呼びかけをして行きたいと考えています。指導者・保護者が連携し「最高の人」への思いを一つにして、空手道のさらなる発展を目指し、歩みを進めていくことができればと考えます。ご協力をどうぞ宜しくお願い致します。

全国高体連空手道専門部指導部

『最強の人から最高の人へ』

苦しく辛い稽古の中でも**努力**を忘れない人

ライバルや未知の対戦相手であっても**勇気**を持ち怯まない人

師はもとより対戦相手に対してまでも**敬意**を払い大切にできる人

恩ある人々を始め周囲の方々にも**感謝**できる人



敬謝 努力

毎日の練習で空手の技術を磨き、より高い頂きを目指す者、広く世界を目指す者、空手を身に付け強くなるからこそ忘れてはならない心がある。

- ・ 我一人では強くならず。我らのチームだけでは、戦う事ならず。
- ・ 師の言葉を守ってこそ力を伸ばし、対戦相手あってこそ、自らを高められる。
- ・ 他の人の協力なくして今の自分は有り得ない。周囲の人々のお陰を忘れてはならない。

東京都高等学校体育連盟「研究部」規約

□□□□□□□□ □□

第一章 名称及び事務局□

第1条 本研究部（以下「本部」という）は、東京都高等学校体育連盟研究部と称する。□

第2条 本部の事務局は、会長指定の高等学校におく。□

□

□□□□□□□□ □ □□第二章 目 的□

第3条 本部は、東京都高等学校体育連盟が教育活動の一環として実施する体育・スポーツ活動に関する調査並びに研究を行い、その発展に寄与することを目的とする。□

□

□□□□□□□□ □□第三章 事 業□

第4条 本部は、前条の目的を達成するために、次の事業を行う。□

- 1) □競技力向上、普及振興、安全対策に関する調査研究□
- 2) □研究会並びに講習会の開催□
- 3) □その他本部の目的達成に必要な事項□

□

□□□ □□□□□ □□第四章 組織及び委員□

第5条 本部は、各競技専門部及び定通制部から選出された委員を以て組織する。□

□□□□□□委員の任期は、2カ年とし、再任は妨げない。□

□

□□□□□□□□ □□第五章 役 員□

第6条 本部に下記の役員をおく。□

- 1) 部 長 1名□
- 2) □副□部□長 2名 （1名は委員長及び本連盟の常任理事を兼ねる）□
- 3) □常□任□委□員 10名 □
- 4) □監 □事 2名□

第7条 役員は、委員会において選出する。□

第8条 役員の任務□

- 1) □部□□□長 部長は、本部を代表し、会務を統括する。□
- 2) □副□部□長 副部長は、部長を補佐し、部長事故ある時はその職務を代行する。□
- □□ □□委員長を兼ねる副部長は、会務を執行する。□
- 3) □常任委員 常任委員は、会務の企画、運営にあたる。□
- 4) □監□□□事 監事は、本部の会計を監査する。□

第9条 役員の任期は、2カ年とし、再任は妨げない。補充によって就任した場合は、前任者の残任期間とする。□

□

□□□□□□□□ □□第六章 会 議□

第10条 委員会は、委員を以て構成し、必要事項を審議決定する。□

第11条 常任委員会は、役員を以て構成する。常任委員会は、部長が招集し、必要事項を審議する。なお、緊急事項が生じた場合は、常任委員会で審議決定し執行する。□
執行内容については、委員会に報告しなければならない。□

□

□□□□□□□□ □□□第七章 会 計□

第12条 本部の経費は、本連盟の一般会計・研究部費、その他を以てこれにあてる。□

第13条 本部の会計は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。□

□

□□□□□□□□ □ □□第八章 附 則□

第14条 本規約は、本連盟常任理事会の議決を得て変更することができる。□□

第15条□本規約は、平成13年11月16日より施行する。□

□経過□□ 1. 平成19年 4月 26日 第一次改定
2 □平成21年 4月 18日 第二次改定

□

□□□□□□□□□□□□ □□□役員の選出に関する細則□

- 1 □部長は、都内高等学校長より選出する。□
- 2 □副部長2名（1名は委員長及び常任理事を兼ねる）は、委員の互選により選出する。□
- 3 □常任委員は、委員の互選により10名を選出する。□
□（各分科会代表3名、団体種目系3名、個人種目系2名、武道系2名）□
- 4 □委員は、各専門部・定通制部の互選とする。（各専門部より若干名、定通制部より1名）□
- 5 □監事は、委員の互選とする。□ □

東京都高等学校体育連盟

<研究部>

組織と名簿

平成28年度

2016年

役職名	氏 名	専門部	属系	勤務校	〒	所在地	電 話	F A X	研究部役職	
部長	庄司一也			都晴海総合	104-0053	中央区晴海1-2-1	03-3531-5021	03-3531-5024	都高体連副会長	
副部長 (委員長)	塩田伸隆	空手道	武道	都立松原	156-0045	世田谷区桜上水4-3-5	03-3303-5381	03-3304-3062	都高体連常任理事	理科(化学)
副部長 (副委員長)	中塚義実	サッカー	団体	筑波大学附属	112-0012	文京区大塚1-9-1	03-3941-7176	03-3943-0848		保健体育
常任委員	奥 正克	ハンドボール	団体	都立小金井北	184-0003	小金井市緑町4-1-1	042-385-2611	042-382-9522	第1分科会チーフ	地歴
〃	田中玄太	卓球男子	個人	日本大学豊山	112-0012	文京区大塚5-40-10	03-3943-2161	03-3943-1991	第2分科会チーフ	情報
〃	工藤慶之	少林寺拳法	武道	帝京	173-8555	板橋区稲荷台27-1	03-3963-4711	03-3963-6415	第3分科会チーフ	数学
〃	田中康之	サッカー	団体	都立立川	190-0022	立川市錦町2-13-5	042-524-8195	042-527-9906		保健体育
〃(会計)	新井理仁	ソフトボール	団体	都立東大和	207-0015	東大和市中央3-945	042-563-1741	042-565-0781		英語
〃	鞠子智秋	サッカー	団体	都立清瀬	204-0022	清瀬市松山3-1-56	042-492-3500	042-491-9491		保健体育
〃	征矢範子	陸上競技男子	個人	筑波大学附属	112-0012	文京区大塚1-9-1	03-3941-7176	03-3943-0848		保健体育
〃	秋月 隼	弓道	武道	都立美原	143-0012	大田区大森東1-33-1	03-3764-3883	03-3764-3854		理科(化学)
〃	児玉朋隼	相撲	武道	明治大学付属中野	164-0003	中野区東中野3-3-4	03-3362-8704	03-3368-3113		英語
監事	尾崎あゆみ	卓球女子	個人	都立南平	191-0041	日野市南平8-2-3	042-593-5121	042-593-1442		国語
〃	牧野飛人	軟式野球	団体	私立中央大学高	112-8551	文京区春日1-13-27	03-3814-5275	03-3814-5278		社会(公民)

新 新	第一分科会 (競技力向上・競技力)	氏 名	専門部	属系	勤務校	〒	所在地	電 話	F A X	研究部役職	教 科
		征矢範子	陸上競技男子	個人	筑波大学附属	112-0012	文京区大塚1-9-1	03-3941-7176	03-3943-0848	常任委員	保健体育
		黒木義郎	陸上競技男子	個人	巣鴨	170-0012	豊島区上池袋1-21-1	03-3918-5311	03-3918-5305		保健体育
		黒須崇仁	陸上競技女子	個人	江戸川女子	133-8552	江戸川区東小岩5-22-1	03-3659-1241	03-3659-4994		保健体育
		笹川浩司	陸上競技女子	個人	都立板橋	173-0035	板橋区大谷口1-54-1	03-3973-3150	03-3959-6591		保健体育
		松永航平	バスケットボール女子	個人	東京電機大学高	184-8555	小金井市梶野町4-8-1	0422-37-6441	0422-37-6821		国語
		沢辺治史	サッカー	団体	都立成瀬	194-0044	町田市成瀬1222-1	042-725-1533	042-724-1336		保健体育
		佐藤弘樹	バレーボール女子	団体	都立小山台	142-0062	品川区小山3-3-32	03-3714-8155	03-3714-8163		保健体育
		阿部一臣	バドミントン	個人	都立東村山	189-0011	東村山市恩多町4-26-1	042-392-1235	042-392-7275		英語
		中島弘貴	テニス	個人	富士見	176-0023	練馬区中村北4-8-26	03-3999-2136	03-3999-2129		社会科
		古志野潤哉	体操男子	個人	成城	162-8670	新宿区原町3-87	03-3341-6141	03-3341-3165		保健体育
		新井理仁	ソフトボール	団体	都立東大和	207-0015	東大和市中央3-945	042-563-1741	042-565-0781	常任委員(会計)	英語
		奥 正克	ハンドボール	団体	都立小金井北	184-0003	小金井市緑町4-1-1	042-385-2611	042-382-9522	チーフ	地歴
		井口成明	水泳	個人	東大教育学部附属中等教育学校	164-8654	中野区南台1-15-1	03-5351-9050	03-3377-3415		保健体育
		田中康之	サッカー	団体	都立立川	190-0022	立川市錦町2-13-5	042-524-8195	042-527-9906	常任委員	保健体育
		牧野飛人	軟式野球	団体	私立中央大学高	112-8551	文京区春日1-13-27	03-3814-5275	03-3814-5278	監事	社会(公民)
		久根下和利	ウェイトリフティング	個人	東亜学園	164-0002	中野区上高田5-44-3	03-3387-6331	03-3387-6335		保健体育
		佐藤貴文	水泳	個人	都立足立(定)	120-0011	足立区中央本町1-3-9	03-3889-2204	03-3880-6757		保健体育
		田草川直希	ラグビー	団体	都立葛西南	134-8555	江戸川区南葛西1-11-1	03-3687-4491	03-3687-4453		数学
		杉浦翔太	ボクシング	武道	都立荒川工業	116-0003	荒川区南千住6-42-1	03-3802-1178	03-3802-8218		工業(電気)

新	第二分科会 (健康と安全)	氏 名	専門部	属系	勤務校	〒	所在地	電 話	F A X	研究部役職	教 科
		諏訪幹人	アーチェリー	武道	東海大学付属高輪台	108-8587	港区高輪2-2-16	03-3448-4011	03-3448-4020		数学
		滝田裕幸	スキー	個人	麻布	106-0046	港区元麻布2-3-29	03-3446-6541	03-3444-2337		英語
		堀越和彦	自転車競技	個人	日本学園	156-0043	世田谷区松原2-7-34	03-3322-6331	03-3327-8987		英語
		田中玄太	卓球男子	個人	日本大学豊山	112-0012	文京区大塚5-40-10	03-3943-2161	03-3943-1991	チーフ	情報
		尾崎あゆみ	卓球女子	個人	都立南平	191-0041	日野市南平8-2-3	042-593-5121	042-593-1442	監事	国語
		高田丈裕	レスリング	武道	日本工業大学駒場	153-8508	目黒区駒場1-35-32	03-3467-2130	03-3467-2165		保健体育
		安海友貴	フェンシング	武道	都立王子総合	114-0023	北区滝野川3-54-7	03-3576-0602	03-3576-0615		保健体育
		湯川 泉	空手道	武道	都立大崎	142-0042	品川区豊町2-1-7	03-3786-3355	03-3782-4059		保健体育
		塩田伸隆	空手道	武道	都立松原	156-0045	世田谷区桜上水4-3-5	03-3303-5381	03-3304-3062	委員長	理科(化学)
		六車健吉	ライフル射撃	武道	明治大学付属中野	164-0003	中野区東中野3-3-4	03-3362-8704	03-3368-3113		芸術(美術)

新 異 異 新	第三分科会 (部活動の活性化・普及)	氏 名	専門部	属系	勤務校	〒	所在地	電 話	F A X	研究部役職	教 科
		太田宏美	体操女子	個人	共立女子	101-8433	千代田区一ツ橋2-2-1	03-3237-2744	03-3237-2782		保健体育
		久保田直実	バスケットボール男子	団体	都立両国	130-0022	墨田区江東橋1-7-14	03-3631-1815	03-3846-6682		保健体育
		芦田浩敏	ソフトテニス男子	個人	都立高島	175-0082	板橋区高島平3-7-1	03-3938-3125	03-3938-4057		数学
		鈴木浩之	ソフトテニス女子	個人	豊島学院	170-0011	豊島区池袋本町2-10-1	03-3988-5511	03-3983-2704		工業(電気)
		徳田泰宜	バレーボール男子	団体	日本大学櫻丘	156-0045	世田谷区桜上水3-24-22	03-5317-9300	03-3304-4328		保健体育
		秋山大輔	スケート	個人	明治大学付属中野	164-0003	中野区東中野3-3-4	03-3362-8704	03-3368-3113		理科
		鞠子智秋	サッカー	団体	都立清瀬	204-0022	清瀬市松山3-1-56	042-492-3500	042-491-9491	常任委員	保健体育
		中塚義実	サッカー	団体	筑波大学附属	112-0012	文京区大塚1-9-1	03-3941-7176	03-3943-0848	副委員長	保健体育
		秋月 隼	弓道	武道	都立美原	143-0012	大田区大森東1-33-1	03-3764-3883	03-3764-3854	常任委員	理科(化学)
		中村豪介	アメリカンフットボール	団体	麻布	106-0046	港区元麻布2-3-29	03-3446-6541	03-3444-2337		保健体育
		君塚善宏	柔道	武道	巣鴨	170-0012	豊島区上池袋1-21-1	03-3918-5311	03-3918-5305		保健体育
		児玉 勝	剣道	武道	都立武蔵丘	165-0031	中野区上鷺宮2-14-1	03-3999-9308	03-3926-9012		
		児玉朋隼	相撲	武道	明治大学付属中野	164-0003	中野区東中野3-3-4	03-3362-8704	03-3368-3113	常任委員	英語
		佐藤智尚	なぎなた	武道	文化学園大学杉並	166-0004	杉並区阿佐谷南3-48-16	03-3392-6636	03-3391-8272		地歴公民
		柳澤左門	ボート	団体	都立日本橋	131-0041	墨田区八広1-28-21	03-3617-1811	03-3612-5396		保健体育
		野中 純	ホッケー	団体	早稲田高等学院	177-0044	練馬区上石神井3-31-1	03-5991-4151	03-3928-4110		数学
		松本至巨	登山	団体	東京学芸大学附属	154-0002	世田谷区下馬4-1-5	03-3421-5151	03-3421-5152		地歴
		工藤慶之	少林寺拳法	武道	帝京	173-8555	板橋区稲荷台27-1	03-3963-4711	03-3963-6415	チーフ	数学
		杉村曉美	チアリーディング	団体	駒澤大学高等学校	158-8577	世田谷区上用賀1-17-12	03-3700-6131	03-3707-5689		公民

平成29年度 東京都高等学校体育連盟 研究部 調査用紙

専門部名

--

◎平成29年度・30年度の2年任期を原則とし、任期の継続をお願いします。
 なお、研究部員は、専門部から複数名出していただくことも可能です。
 ※印欄の内容は、委員名簿には掲載しませんが、連絡に使用させていただきたいので、是非ご記入下さい。

研究部員	よみがな				携帯電話番号 ※		
	氏 名				メールアドレス ※		
	勤務先 学校名				E-mail アドレス ※		
	勤務先〒		勤務先 住所			(担当教科)	
	勤務先 電話番号				勤務先Fax		
専門部報告	(競技力向上の取組み)						
	(健康安全面での取組み)						
	(部活動活性化＝普及活動での取組み)						
	(専門部の研究組織、専門部または専門部員の取り組んでいる研究)						

提出期限 平成29年 4月 10日(月)

平成29年度 東京都高体連研究部
委員会 開催予定日

平成29年 4月18日(火)

提出先

研究部委員長 塩田 伸隆 都立松原高校 090-2474-0891

E-mail Nobutaka_Shioda@education.metro.tokyo.jp

◇この調査内容は、原則、E-mailで、ご報告願います。

※この書式をデータとして必要な場合、東京都高体連ホームページからダウンロードできます。
 または、塩田宛にメールでご連絡下さい。添付ファイルとしてお送りします。

※調査用紙はできるだけ詳しくご記入ください。

